

1970 高瀬弘一郎 (1936-) / キリシタン宣教師の軍事計画 上・下

* 僭越ながら、私なりに精緻な論文を纏めた。多々、誤認、誤解もあると思う。

ネットに公開されているので、各自、原文を熟読して戴きたい。

1549 ザビエル (1506-1552) 鹿児島

1551 ザビエル、京都に赴くが戦乱のため、天皇、將軍も権威がないことを悟り、離日
広東沖のサンショアン島で病死

1569.7.8 マルティン・デ・ラダ (アウグスチノ会) セブ発 中国を征服する計画

1576 フィリピン総督宛 スペイン国王、メキシコ副王宛 中国に対して武力征服する献策

1577.4.29 スペイン国王の返書 目下のところ適当でない

1580.4.24 フランシスコ・デ・オルテガ ロンキーリョ・デ・ペニャロサ宛 (フィリピン総督) 友好関係を結び、布教活動、貿易基地を割譲させる

1581.04 フェリペ二世、スペイン国王に即位し、ポルトガルを 1640 まで併合した

1582.6.24 ドン・ジョアン・デ・アルメイダ フィリピン総督宛

中国では赤毛の人間が遠方から来て国を奪うという予言が行われている。

布教を行い、占領地域を拡大する 広東市を占領し、要塞を築く

ポルトガル人がスペイン人のマカオ渡來を反対した理由

1 中国産の生糸を独占する

2 マカオ 何時でも退去させられる

ヴァリニャーノ (1539-1606)

1582.12.14 フィリピン総督宛 中国征服は無謀である

日本の布教は重要

日本は征服の対象として不向き しかし中国征服の前提として有効

武力行使に反対でコエリョ (1527-1590) を解任した。実際、武力で日本を征服できない。

1582 (天正 10)、ヴァリニャーノは九州三侯の少年四人をヨーロッパへ派遣した。

ヴァリニャーノ (1539-1606) はインドで留まり、日本語に通じたメスキータが使節の指導にあった。使節は、リスボア、マドリッド、ローマなど各地で熱狂な歓迎を受けた。

1583.1.30 ペドロ・ゴメス (イエズス会) フィリピン総督宛

中国人はスペイン人を恐れている。ショウ州人達がスペイン人は征服者である。

中国の国土を征服するための間者である。

1583.6.18 ドミンゴ・デ・サラサル スペイン国王宛 中国に対する武力征服は正当

かの野蛮人どもが、説教者を殺害したり、害を加えないようにしなければ、布教は危険

野蛮人共はスペイン人を知らず、僅かな鉄炮隊で何百万人もの中国人を滅ぼせる

1583.6.20 ディエゴ・ゴンキーリョ (フィリピン総督) スペイン国王宛

8000 人のスペイン兵と 10-12 艘のガレオン船の艦隊で充分、中国を征服できる

1584.6.25 カブラル マカオ スペイン国王宛 中国征服を勧告

カブラルの布教政策は誤りとして、ヴァリニャーノがカブラルを解任

- 1 中国の貴族は逸楽に耽り、柔弱
- 2 中国の国民は武装していない
- 3 中国に青銅の弾丸はない
- 4 中国国民は未信者（キリスト教徒でない）
- 5 司直のような高級官吏がいて、政治が過酷のため、謀叛が多くなっている

フィリピン、ペルー、メキシコそして日本のキリスト教徒、マカオの原住民 3000 人

1584.6.27 サンチェス マカオ スペイン国王宛 中国への軍事行動

1584.7.,5 サンチェス マカオ コエリョ宛（日本準管区長） 中国征服

説教によって、中国人を改宗させることは不可能 メキシコ、ペルーと同様、武力で征服

フラガータ船（大砲を備えている） 3-4 艘でキリスト教徒の領主を支援する

ドン・アウグスティン（小西行長）（1555-1600）も武装した兵隊で戦う用意がある

日本で、6,000 人ほどの武装兵を調達できる。

1584.9.17 松浦鎮信（1549-1614） フィリピン総督宛 スペイン国王の命令に従う

* しげのぶ 松浦法印 平戸のキリシタン大名

1586 松浦氏（平戸）の家臣 マニラで、スペインの要請次第、兵隊を提供できる

1587（天正 15.06.19-20）博多で発令、キリスト教宣教師を国外退去を命令（バテレン追放令）

1588.3.0 フランシスコ・マンリーケ（アウグスチノ会）発 スペイン国王宛

キリスト教徒の王は四人だが、10 万人以上の兵を出動できる

日本の兵隊は勇敢で大胆、残忍、中国を占領することは容易である。

- ・大友宗麟（1530-1587）
- ・大村純忠（1533-1587）
- ・高山右近（1552-1615）
- ・小西行長（1558-1600）

1590（天正 18）、インド副王の資格で長崎へ帰国する。

1591（天正 19）、聚楽第で、秀吉に謁した。千々石ミゲルは棄教し、他の三名も司祭になったが、病死、殉死した。

1596（慶長 1）土佐の浦戸にスペイン船（サン・フェリペ号）が漂着。その乗組員の水先案内人は、世界地図を示して、スペインが広大な国土を有している。宣教師を遣わし、布教事業とともに制服事業を進めると述べた。大坂のサンフランシスコ会の宣教師、日本人信徒が捕らえられ、長崎に送られて処刑された。

- ・ローマ、イエズス会文書館
- ・セビーリャ、インド総合文書館

1948（昭和 23）岡本良知／天正末に於ける耶蘇会の軍備問題／桃山時代のキリスト教文化（p.42）

* ガスパル・コレリョが日本人に対する露骨な軍事行動を企てていた。高瀬は岡本の所見から多大な啓発を受けたと書いている。

1596 サン・フェリペ号（ガレオン船）が土佐国に座礁した。

・水先案内人は、世界地図を見せて、キリスト教を布教し、その後、軍隊を送り支配する。

○ 秀吉(1537-1598)による宣教師追放令発令の原因

- 1 イエズス会の日本への領土的野心説
 - 2 キリシタン勢力の本願寺的性格（一向一揆）説
 - 3 キリスト教が日本の国法、伝統、宗教を否定するものであったという日本神国説
 - 4 ポルトガル船の博多湾への廻航拒絶、ポルトガル人の日本人奴隷売買、不品行などポルトガル商人の失策説
 - 5 秀吉側近の施薬院全宗（1528-1596）ら反キリシタン勢力による画策説
 - 6 キリシタン勢力の神社、仏寺破壊など、過激な活動によるものとする説
 - 7 教会領長崎の没収を目的とする説
- * 各地の教会は没収、破壊された

1599（慶長 4.02.25）長崎 ペドロ・デ・ラ・クルス発 イエズス会

- 1 日本の改宗事業はポルトガル貿易に参加して利益を得たい殿達（Tonos）の期待に応える
 - 2 領主が改宗すれば、家臣も改宗する。
- ・男色、間引、墮胎といったことが罰せられることなく行われている。改宗しても道德は別。
 - ・殿達は、すぐ棄教する。
 - ・スペイン人が殿達と親交を結び、貿易を行えば、領主は利益を得るので説教と改宗を認める
 - ・日本人は直ぐ航海術に熟達し、軍艦を造るようになる。
 - ・日本では兵器が不足している。スペイン軍は大挙して日本を襲うことが出来る。塩田を得る。
 - ・ナウ船（ポルトガル）の生糸貿易、収益に強い関心をもっている。
 - ・天草島が要塞に適している。
 - ・日本人は、スペインが法の説教を口実に国土を窺っていると疑惑を抱いている。
 - ・地方の領主に対して、メキシコ、フィリピンと貿易を行うため、湊を提供して欲しいと要請（雁註）メキシコとの貿易を実現するため、伊達の支倉（はせくら）が選ばれた。
 - ・悪魔は仏僧を使って日本人を騙してきたが、キリスト教が普及すれば、それが出来なくなる
 - ・慈悲の行為、貧者、孤児、捕虜、被迫害者に対して施しをする。
 - ・日本を征服、そして中国を征服する。
 - ・中国を改宗させるには、征服による以外、手段はない。
 - ・基地は、ポルトガルがシモ（九州）、スペインがカミ（四国、関東、東北）と競合しない政策

デ・ラ・クルス(1559-1606) スペイン

- ・日本に対して、露骨な軍事計画を述べている。

- ・スペイン系托鉢修道士とイエズス会の対立
- ・布教と貿易、ポルトガルとスペインは共存すべきである。

1613.01.04 京都 ペドロ・モロホン イエズス会宛

- ・布教を行い、国土を奪う。フィリピン、ヌエバ・エスパニャに対して行ってきた。

1620（元和 6）ファビアン／破提字子（はでうす）

1621.03.15 日本 マテウス・デ・コーロス イエズス会宛

- ・神の教えは、諸國を征服するために作り出された手段である。

オランダ、イギリス両国による宣伝工作

ポルトガル、スペインといったカトリック教国は、植民地を獲得してきた経緯。